

町家再生活動『YATSUGI』の取り組み 町家を未来に繋げる

NPO法人 YATSUGI 副代表理事 大洲市地域おこし協力隊 井上 陽祐



大洲市 肱南エリア

大洲市は肱川の上流から下流までの一帯を占める市で、その中域には昔ながらの城下町の町割が残る肱南エリアがあります。肱南エリアの中心に大洲城があり、肱南のシンボリックな存在となっています。また肱南を象徴する建物としてもう一つ、国の重要文化財にも指定されている臥龍山荘があります。明治時代に大洲出身の貿易商であった河内寅次郎が、木蠟貿易で成した財を惜しみなく投下して作った近代数寄屋建築です。当時、河内寅次郎は、文明開化後の近代化による日本文化の衰退を憂い、茶の湯文化の保護を目的として京都から茶室建築に優れた名工を呼び寄せこの臥龍山荘を作りました。現在では大洲観光の目玉となっております。年間3万人以上の観光客が訪れています。この肱南エリアは、これら臥龍山荘をはじめとして明治期から昭和初期に建てられた古民家や町家がまだ100軒以上残っており、大洲市ならではの景観を形作っています。

町家・古民家の危機

昨年、私は大洲市の地域おこし協力隊として東京からUターンしてきました。市役所で勤務する中で気づいたのは1ヶ月に1〜2度は市役所に『肱南の家を処分したい』『肱南にある空き家をなんとかしたい』という相談が来ることです。特に肱南エリアは空き家率が高く、空き家となっている民家の所有者の方のほとんどは市外もしくは県外にいらっしゃいます。市外や県外にいらっしゃる所有者の方は、お盆やお正月などには実家である肱南エリアの家に帰ってきて、掃除や補修などを行っていたのですが、所有者の方も高齢になっていく中で、肱南エリアにある実家を手放したいという方が多く出てきていました。また所有者の方の中には、ご近所に迷惑をかけることを避けるために肱南の家を更地にする方もいらっしゃいました。

YATSUGIの創生

この肱南エリアの古民家や町家をなんとか守り、継承し、次世代につなぐ



YATSUGI プロジェクト



ロゴマーク

ために、肱南エリアで大洲唯一のゲストハウス『しるまぢゲストハウス』を経営する三瀬氏を代表としてYATSUGIが昨年よりスタートしました。YATSUGIは『町家/古民家継承(家継ぎ)』『所有者から次世代への活用へのつなぎ』『矢継ぎすぐに次のアクションを起こす』という意味を込めています。活動内容として左記1〜8を行なっています。